

山河在り

東陽中学校だより
平成二十八年度第三号

平成28年12月22日
文責 米村

～東陽の伝統文化を学び、後世に伝える役目を果たす～

東陽町文化の祭典「**の活躍に自信と誇りを**

平成二十八年十一月二十七日に開催された「東陽町文化の祭典」では、東陽中・東陽小の子どもたちがこれまでの練習の成果を發揮し、素晴らしい演技を発表してくれました。

東陽町文化の祭典で、小中合同での伝統文化を発表するのは昨年到现在に続いて二回目となります。指導いただいた地域の方にお話をしっかりと拝聴する機会がありました。今年は、昨年に比べ練習時間や児童・生徒数が少ない割には素晴らしい演技ができたこと、この成功を自信につなげ、卒業後も様々な機会や場所で、東陽町の伝統文化に関わって欲しいこと等を、熱く語っておられました。

十二月三日のやつしろ子ども人権フェスティバルでも、人権擁護委員として参加されたこの方は、不登校に悩む同級生を太鼓の力で勇気づけた劇を主役として好演され、活躍されていました。

また、太鼓等の舞台で使用する道具のメンテナンスや、普段の練習で使用しているバス輸送についても、東陽支所職員の方々を始め



たくさんの方が尽力下さった事実があることを忘れてはいけません。

東陽小中学校合同で取り組んでいる「伝統文化学習」は、石匠太鼓・箱石銭太鼓・坂より上棒踊りの三種があります。参加人数や楽器の違いで迫力ある演奏に差が出るものです。大切なことはそれぞれの伝統文化を理解し、演技者がたとと考えます。



門外不出として大切にされた「坂より上棒踊り」。平家の歴史にまでさかのぼる。



東陽村時代に創作された「石匠太鼓」。太鼓の数の多さで迫力ある演奏が観衆の体に伝わる。



二百年の歴史を受け継ぐ「箱石銭太鼓」。笛と太鼓、鈴の音が観衆の脳裏に残る。

「東陽の宝」に触れ、故郷東陽が好きになる

今夏、八代市立博物館の展示会には「江戸時代の八代町と村」をテーマに現在の八代各地から集められた歴史資料が展示されていました。その中でも特に目についたものが幻の漆器「河俣塗り」や東陽に縁のある歴史資料の数々でした。

東陽支所のご協力で学校から博物館までの移動手段を確保し、展示会を企画された鳥津学芸員に資料を前に直接解説頂くという絶好の機会を子どもたちは生かしてくれました。見学後の感想文に「これまでコンビニもない田舎」と思っていた東陽を、出身者として誇りに思うという一文を目にし、読んだ私が感動を覚えました。残念ながら博物館の資料などは、写真撮影したり転載するには許可が必要となります。そこで、今回はこの貴重な「河俣塗り」の現物を所有されている「瑞宝寺」様、「光林寺」様のご協力を得てここに紹介させて頂きます。

河俣塗りの膳



裏面に刻印



黒漆(上)と木目を生かしたものの(下)

河俣仲平

河俣仲平とは、富岡仲平のことでこの人物が江戸時代に藩主の細川家にも奉納していた「河俣塗り」の初代にあたる。

「河俣塗り」がなぜ幻の漆器と言われるか。明治期に河俣塗りの職人が集団でブラジルに移住し、それ以降河俣の地で「河俣塗り」を作る人がいなくなったからである。

河俣の瑞宝寺では、いまでもこの河俣塗りを日常の仏事等で大切に使用されている。

「河俣塗り」を研究している人もいて、SNSでその成果を発信している人の情報には、螺鈿細工(貝殻で装飾を施したもの)の「河俣塗り」が紹介されていた。

※ 文章作成に当たり、光林寺関係者でもある佐々木響生さん(本校1年生)や博物館学芸員の方にも話をお聞きしました。

裏面もご覧ください

今年最後の決戦は白団が勝利をつかみ取る！

十二月二十日に開催された平成二十八年度校内駅伝・持久走大会では、白団が総合優勝をつかみ取りました。四十名の生徒が紅白二団に分かれ、各団A・B・Cの三チームが五区間でタイムを争いました。駅伝一区と並行して持久走大会も実施。男子一千七百五十m、女子一千二百二十mは駅伝出場の選手と同じ距離・コースを走っているのです。ここ数年、同じコースを走っているの、タイム比較が可能。今年は一区のみ古島瞬選手(白A二年)と五区の寺田圭佑選手(白B二年)が見事に区間新記録を樹立しました。持久走では、男子和田圭史選手(白一年)女子古賀瞳選手(紅二年)が一位の栄冠を手に入れました。走者は全力を發揮し、すがすがしい汗に輝きました。



新しい年に向けての準備

十二月二十六日に二期期の終業式を迎え、平成二十八年の授業も終わります。これからの学校行事の日程で、特に大きなものについて、決定済みのもの、ほぼ決定に向けて動いているものを紹介します。東陽小学校との協議の結果、二十九年の運動会は五月開催が確定しています。

今後の大きな学校行事

- ①卒業式：3月11日(土)
[13日(月)が振替休日]
- ②修了式：3月24日(金)
- ③始業式：4月10日(月)
- ④入学式：4月11日(火)
- ⑤東陽小中合同運動会：
5月開催で調整
- ⑥1年生集団宿泊教室：
9月12日(火)・13日(水)
あしきた青少年の家宿泊
- ⑦2年生修学旅行：平成
30年2月4日(日)～6日(火)
広島・京都・大阪

生徒会も後輩へ託す…東陽中の未来

十二月十五日に本年度の生徒会役員改選を実施しました。新生徒会長に佐々木美芳さん、新副会長に和田愛未さんが当選。立ち会い演説会で競ったライバル候補者の健闘も光りました。今年度は立候補した人々の主張がどれも素晴らしいものでした。今後は様々な役員として、自ら掲げた主張の実現をめざしましょう。

これまで生徒会を引っ張ってきた上村会長、加藤副会長、押方議長、各専門委員長を務めてきた三年生の皆さん、本当にお疲れ様でした。やり残した仕事があると思えば、新役員が決定した後、しっかりと引き継ぎを行って下さい。具体的な仕事の内容に加えて、表には見えにくいもの・心構え等をしっかりと伝授してもらいたいものです。養護の松坂先生から、木口保健給食委員長がカテキんうがいに使用した各学年のポットを隅々まで洗い翌日の準備を徹底していた話を聞きました。誰に指示されたものでもない自然な所作に感心しました。伝統にして欲しいと願います。

寒さに耐え花開く植物

厳しい寒さが続くようになりました。校庭の銀杏は落葉しましたが、紅葉はまだ深紅の葉を残しています。気の早い水仙が数輪の花を咲かせています。正面玄関や校舎南側の軒下には、十月二十八日に「花いっぱい運動」で植栽したプランターに色とりどりの花が寒さに耐え咲き続けています。なでしこ・ビオラ・金魚草の花々は様々な色合いで特にビオラは紫とオレンジの二色を一つの花で楽しむことができます。環境教育担当徳田先生の計画で、全校生徒による作業の成果が開花に結びついていることは喜ばしい限りです。ここに至るまでに積み重ねられた人々

人々の念いに応えてか

の努力を一部ですがお知らせしておきます。生活環境委員会が中心となって「花いっぱい運動」を実施してくれましたが、その一人、二年生の小瀧颯真さんは毎朝、部活動の練習があつている時間に水やりを欠かさず継続してくれました。また、学校用務の林田先生は、鹿の食害から植えた花を守るための整備を実践されています。花の輝きを支える力です。



「東陽の旋風」続々発行中!!



<http://jh.higo.ed.jp/toyojhs/>

東陽中生徒の活躍を写真と短い文章で紹介する「東陽の旋風(かぜ)」を十月下旬より発行しています。最新版は十二月二十一日号で、七回目となります。六回目的のものと両面、今回よりご家庭にも配布していきます。ご愛読頂ければと思います。また、これまで同様、学校のホームページでは学校行事の様子や毎日の給食献立をアップご活用下さい。

最後までご覧頂きありがとうございました。